

抗生物質の投与には何らかのリスクが伴いますか？

非常にまれですが、妊婦の方が抗生物質に対してアナフィラキシーと呼ばれる重度のアレルギー反応を示す場合があります。過去に薬物(特にペニシリン)に対してアレルギー反応や副作用などがあった場合は、必ず助産師または医師にお知らせください。

GBS検査で陽性の結果が出た場合、またはリスク要因の存在が明らかになっている場合でも、分娩中に抗生物質の治療を行うことで、赤ちゃんがGBSに感染するリスクを低減することができます。

帝王切開とGBS

GBSスクリーニングは、帝王切開分娩を予定されている妊婦の方にとっても重要な検査です。ご自身に当てはまるかどうか、助産師または医師にご確認ください。



さらに詳しい情報：

GBSについて、またはそのスクリーニングについて詳しい情報をご希望の方は助産師または医師にご相談ください。

73 Miller Street, North Sydney, NSW 2060
 Locked Mail Bag 961, North Sydney 2059
 Tel: 61-2-9391 9000
www.health.nsw.gov.au/kids-families/

SHPN: (HSP) 170649

September 2016



妊娠中のGroup B Streptococcus (B群溶血性連鎖球菌) (GBS) スクリーニング



Pregnancy screening for Group B Streptococcus (GBS)

B群溶血性連鎖球菌とは

B群溶血性連鎖球菌 (GBS) は人の体内に常在することのある細菌で、通常は人体に害を及ぼすことはありません。GBSは一過性の細菌で、自然に感染したり治癒したりする場合があります。性行為によって感染することはありません。女性の3人に一人程度はGBS菌を膣内に保有し、その存在に気づいていない可能性があります。GBSは尿中に検出されることもあります。

GBSと新生児

GBSは、分娩中および出生時に赤ちゃんに感染する場合があります。新生児では敗血症、髄膜炎、肺炎などの致死的な感染症の原因となる場合があります。きわめて少数(およそ2000人に一人)の新生児が早発型のGBS感染症を発症します。新生児へのGBS感染リスクがより高いと思われる妊婦には、分娩中に抗生物質を投与(点滴静脈注射)して治療を行い、感染のリスクを低減します。まれですが、こうした検査や分娩中の治療にも関わらず新生児がGBSに感染する場合があります。GBSに感染した新生児には、抗生物質による治療が入院中に施されます。

GBSと出生後の赤ちゃん

分娩中に行う治療は、すべての赤ちゃんに対して常に効果を発揮するとは限りません。ただし、赤ちゃんが出生後にGBS感染症を発症した場合にも抗生物質で治療を行うことは可能です。



赤ちゃんのGBS感染のリスクを低減する方法

赤ちゃんのGBS感染のリスクを低減するには、まず妊婦の方がGBSに感染していないかどうかを確認することが大切です。これには二通りの検査方法があり、どちらも同等に効果があります。

病院／医療機関は、以下のいずれかの方法を用いて検査を行います。さらに詳しい情報をご希望の方、ご質問・ご懸念をお持ちの方は助産師または医師にご相談ください。



1. リスクに基づいたスクリーニング:

このスクリーニング法では、出産の際に赤ちゃんへのGBS感染のリスクが高いと考えられる女性を識別します。リスク要因には以下の場合が含まれます。

- 以前の出産において、赤ちゃんがGBSに感染したことがある場合
- 妊娠期間中いつでも、尿中にGBSが検出された場合(検出の時点で抗生物質による治療を受けた場合も含む)
- 37週間未満で出産する場合
- 分娩中、妊婦の体温が38°Cを超える場合
- 赤ちゃんのまわりで感染症の兆候がみられる場合
- 破水から出産までに18時間以上かかっている場合

2. 出産前の定期検査:

妊婦の方は、妊娠35週目から37週目の間に検査を受けてGBSが陽性かどうか調べることができます。検体は綿棒を用いて簡単に採取できますが、助産師や医師に採取を依頼することも可能です。

採取した検体は病理検査に送られ、次回の産前診察の際に結果が報告されます。

治療計画

GBS検査で陽性の結果が出た場合、または既にGBSリスク要因の存在が明らかになっている場合は、分娩中に抗生物質の治療を受けることが勧められています。病院／医療機関は、こうした検討事項について妊婦の方と話し合い、本人の同意を得たうえで治療計画を作成し、診療記録に記入します。